■東京記念（SⅡ）アラカルト（過去全 60 回の分析）

※第 1 回（昭和 39 年）から第 14 回（昭和 52 年）までは「東京オリンピック記念」の名称で実施
※第 1 回（昭和 39 年）から第 37 回（平成 12 年）まではハンデキャップ競走として実施
※第 44 回（平成 19 年）から第 54 回（平成 29 年）まではＳⅡとして実施
※第 55 回（平成 30 年）から第 60 回（令和 5 年）まではＳⅠとして実施
※記録は令和 6 年 8 月 29 日時点

■1 番人気馬の好走率は悪くない水準

単勝 1 番人気馬は 22 勝、2 着 13 回、3 着 5 回で、3 着内率が 66.7%、単勝 2 番人気馬は 9 勝、2 着 11 回、3 着 7 回で、3 着内率が 45.0%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 7 回、3 着 11 回で、3 着内率が 50.0%となっている。もっとも前評判の高い馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■3 番人気以内の馬が 1～3 着を占めた例は 5 回

過去 60 回のうち 43 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 18 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 5 回ある。

■4～5 歳馬が優勢

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 4 勝、4 歳が 25 勝、5 歳が 16 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 4 勝、8 歳が 2 勝、10 歳が 1 勝となっている。4～5 歳勢が全体の 3 分の 2 以上を占めている点は頭に入れておきたい。

■牝馬は 4 勝、外国産馬は未だ優勝なし

牝馬の優勝例は第 29 回（平成 4 年）のドラールオウカン、第 30 回（平成 5 年）のホワイトシルバー、第 34 回（平成 9 年）のマキバサイレント、第 40 回（平成 15 年）のネームヴァリューと、計 4 回ある。なお、外国産馬の優勝例はまだない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、8 勝の的場文男騎手が単独トップ。2 位タイの石崎隆之騎手、内田博幸騎手、高橋三郎騎手、福永二三雄騎手（各 4 勝）を大きく引き離している。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3 勝の渡邉和雄調教師が単独トップ。2 勝の赤間清松調教師、岡部猛調教師、川島正行調教師、北川亮調教師、小久保智調教師、庄子連兵調教師、遠間波満行調教師、福永二三雄調教師、森下淳平調教師、矢野義幸調教師、矢作和人調教師が 2 位タイとなっている。

■3～6 枠の勝利数が多い

枠番別勝利数を見ると、6 枠（11 勝）が単独トップ。4 枠（10 勝）が単独 2 位、3 枠と 5 枠（各 9 勝）が 3 位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、4 番（8 勝）が単独トップ。7 番（7 勝）が単独 2 位、3 番、5 番、6 番（各 6 勝）が 3 位タイである。なお、未勝利の馬番は 16 番だけだ。

＜伊吹雅也＞